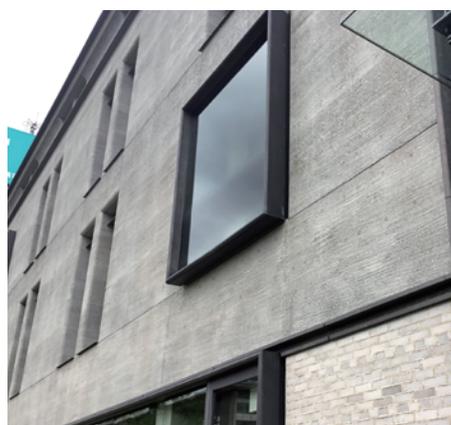
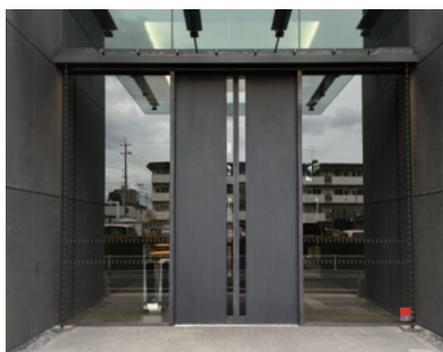




コンクリート打放しの
大胆な壁を引き締める
グレーの連窓サッシ。
ZCFCの深みのある仕上で
落ち着いたモダンな印象に。



倉敷駅や倉敷美観地区からほど近い位置にある倉敷中央病院は、1923年に創立者の大原孫三郎氏により「病院くさくない明るい病院」というコンセプトで創設された歴史ある病院です。2019年に竣工した「予防医療プラザ」は、コンクリート打放しの外壁にスチール製 ZCFC 仕上のサッシが採用されており、今までのデザインを一新する建物になっています。溶融亜鉛メッキ鋼板の連窓サッシや風除室のサッシは、ZCFC 仕上の中でも「ZCFC-GR（グレー）」が採用されており、コンクリートの壁にマッチしています。より耐食性を高めるためサッシの最下部はステンレス製とし、溶融亜鉛メッキ鋼板の部分と意匠を揃えた ZCFC 仕上を行いました。ステンレスは塗膜の密着が悪いため、まず先に細部まで丁寧に目荒しを行い、その後に ZCFC 仕上を行う工程としました。

DATA

施設名：倉敷中央病院付属予防医療プラザ
所在地：岡山県倉敷市
材料：高耐食性メッキ鋼板
納入製品：ZCFC 壁パネル、サッシ、ドア